

道徳

児童 2年3組 男子16名 女子15名 計31名

授業者 杉原 亮平

【創出していく子どもとしてねらう姿】

子どもたちが今の学年で生活することも残り2か月となった。本学級は、学習への意欲は高く、楽しく生活している一方で、「新しいことに挑戦すること」や「できないと思ったらあきらめてしまう」という傾向がある。しかし、3年生へ進級したとき、音楽の時間のリコーダーをはじめ、新しいことに取り組む機会が増えてくる。したがって、これからは挑戦することをためらわず、挑戦し続けることが必要である。

本主題では、子どもたちに「挑戦することの意義」を見出させていきたい。挑戦することの意義を感じ、挑戦し続けたいという態度を育てていきたい。

第1時では、内容項目Cの家族愛を題材にした。挑戦する時に家族が支えてくれたことに気づき、喜んでくれたり、支えてくれたりした家族のおかげで挑戦できたという新しい価値を見出した。第2時では、内容項目B友情・信頼を題材にした。挑戦する時に仲間が励ましてくれたことに気づき、仲間がいたから挑戦することができたという新しい価値を見出した。第3時では、内容項目Aの希望と勇気・努力と強い意志を題材にした。挑戦を続けることで周りの人が支えてくれるのでまた挑戦したいという新しい価値を見出していく。実生活の中で、できるようになることだけではなく、挑戦を続ける気持ちを大切にしようという気持ちをもたせていきたい。挑戦することに価値を見出していくことが、本主題での創出していく子どもの姿である。

【視点① 子どもが考えることを楽しめる授業構成】

（1）学級目標「あっぱれ」を軸とした主題構成

本学級の学級目標「あっぱれ」を中心に、主題が構成されている。子どもたちは4月から毎日の生活で友達の「あっぱれ」などところを見つける活動をしている。これまでに取り組んできた学級活動「あっぱれ」を活かし、どのような姿勢や態度が「あっぱれ」なのかを考えるを通して、これからの自分を見つめなおすきっかけにしていきたい。

（2）子どもの活動を生かした授業構成

導入部分では、子どもたちが書いたアンケートをもとに、挑戦したけどできなかったことについて話し合う。一人ひとりが記入したアンケートを提示することで、子どもたちが本授業を自分事として考えることができ、学んだことを実生活で生かしたいという想いを感じるようになる。また、授業の終わりに授業前の気持ちと授業後の気持ちの変化を実感できるように、サイドボードを提示する。

【視点② 子どもが新しい価値に迫るための教師の関わり】

（1）子どもから実生活と関連して考えることができるような問いや問い返し

「みんなだったらどう思う？」などと問うことで、実生活と関連付けて考えることができるようにしていく。また、子どもの発言を学級全体に広げることができるように、「それって～ということ？」などの問い返しをする。そうすることで、子どもの考えを深めることができる。と考える。

（2）子どもの考えを広げる構造的な板書

板書事項を自分と周りの人に類別することで、子どもたちの考えを整理したり、仲間の考えを把握したりすることができるようにする。「自分の考えを発表したいけど、なんと説明すれば良いのかわからない」、「自分の気持ちに適した言葉が見つからない」子どもにとって、板書があることで考えを広げることにつなげていきたい。

評価基準

・自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。

主題構成 (3時間扱い)

学習活動と主な子どもの思考の流れ

学級活動 あっばれ 友達の「あっばれ」を見つけよう。

冬休みの自分のあっばれは？

家族の手伝いをした

九九がすべて言えるようになった

毎日宿題をした

①

子どもにとっての新しい価値

家族が喜んでくれるから、挑戦したよ。いつもよりいい気分になったな。

※資料イラスト

『ぼくのうちの夕はん』 C 家族愛

どうしてまさきは夕飯がいつもよりおいしく感じられたのかな？

自分で米とぎができたから。

家族に褒められたから。

お父さんやお母さんが喜んでくれたからだね。

②

子どもにとっての新しい価値

※資料イラスト

仲間がいたから挑戦できたんだね。自分は仲間のために何かしているかな？

『ころきちとバイオリン』 B 友情・信頼

どうしてころきちは、またバイオリンを弾いたんだろう？

ポンタがいたから。

仲間たちともう一度音楽会をしたいから。

仲間が励ましてくれたからだね。

子どもにとっての新しい価値

③ (本時)

挑戦することで周りの人が支えてくれたんだ。また挑戦したいな。

『さかあがりできたよ』 A 希望と勇気

どうして『わたし』は挑戦し続けられたの？

※資料イラスト

※資料イラスト

※資料イラスト

周りの人が応援してくれたから

鉄棒が大好きだから

自分が好きなことに、周りの人が支えてくれたり協力してくれたから。これからも挑戦しよう。

給食時間
苦手なものや、食わず嫌いの物を一口でも食べてみようとする態度を育む。

算数 『九九の表』
かけざん九九を忘れても、また覚えなおそうとする態度を育てる。

体育 『スキー遊び』
できるようになるために練習したり、あきらめずに練習を続けようとする態度を育てる。

できるようになることだけじゃなくて、挑戦することこそあっばれだ！

九九をもっとスムーズに言いたいな！

逆上がりががんばってみようかな？

給食一口食べてみようかな？

本時案 (3 / 3)

本時の目標

『わたし』がどうしてがんばれたのかを考えることを通して、子どもたちが日常生活でがんばる意義を見出し、最後まで一生懸命にがんばろうと思う気持ちを高める。

本時の学習展開の構想

学習展開と主な子どもの思考の流れ	教師の関わり
<p style="text-align: center;">挑戦することの大切さを考えてきている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>アンケート結果(挑戦したけど、諦めた、できなかったこと)</p> <p>縄跳び、跳び箱、プールで顔をつけること、さかあがり、後ろ回り</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>あきらめた人、あきらめなかった人がいる……</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>アンケート結果(挑戦して、できたこと)</p> <p>跳び箱、さかあがり、友達をつくること、かけ算、大きい声で発表</p> </div> </div> <p>○「さかあがりできたよ」の範読を聞く。 ○自分のペースで教材を読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうして『わたし』は挑戦し続けられたの？</p> </div> <p>○隣同士で自分の意見を発表し合う。 ○全体交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> ありがとう がんばるよ 練習するよ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">自分が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒が大好きだから ・好きでやっているから ・夢中になっているから ・できたらうれしいから ・うらやましかったから ・みんな手伝ってくれるから ・できないと困るから <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">自分</p> </div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 30%; text-align: center;"> <p style="font-size: 3em; font-weight: bold;">挑戦したい！</p> </div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">家族が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめてくれるから ・喜ぶから ・手伝ってくれるから <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">友達が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜ぶから ・認めてくれたから ・手伝ってくれたから <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">先生が</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">周りの人</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> 手伝うよ もう少し アドバイス </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分が好きなことに、周りの人が支えてくれたり協力してくれたから。これからも挑戦しよう。</p> </div> <p>○アンケート結果（挑戦したけど、諦めたこと）について話し合う。</p> <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">あっぱれ！ ← どちら？ → あっぱれじゃない？</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">れんしゅうすればできるようになるかもしれない</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">できたときうれしい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">できなくてもがんばったから</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>3年生になるこれからの自分に向けて手紙を書いてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが日常生活と比べて考えるようにするために、アンケート結果を提示する。 ・子どもが内容を把握できるように、教師の範読のあと、もう一度自分で読ませる。 ・子どもが友達の考えと比較したり、共有したりできるように、考えを分類し、板書に位置付ける。 ・あっぱれプラカードを貼ったり、問い返したりして、自分と周りの人が支え合う関係に気付くようにする。 ・挑戦することこそ「あっぱれ」だということをおさえる。 ・アンケート結果について価値づける。

評価

- 挑戦を続けることで周りの人が支えてくれることがわかったか。
- これまでの経験を振り返り、これからも挑戦すること、周りの支えになりたいという気持ちをもてたか。

この段階においては、やらなければならないことを素直に受け入れることが多いといわれる。特に親や教師の励ましや賞賛、助言などの下に、この時期の基本的な課題である勉強や自分のなすべき仕事を、自分でやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導する必要がある。また、やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、がんばることができた自分に気付くことができるようにすることが求められる。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

・事前アンケート

(さかあがりができるかどうか、がんばったけど、途中であきらめたことはないか、これまでにがんばってできるようになったことはあるか)

○指導観

2年3組の児童は、授業に集中することや、

しかし、新しいことに挑戦することや、自分ができないだろうと感じてしまったものには積極的に挑戦しない傾向がある。そこで、2学期の目標として『挑戦』を掲げ、『挑戦』した児童を褒めたたえる活動を取り入れてきた。本時では、「なぜ挑戦するのか」「挑戦することの意義」について考えさせたい。

○児童観

挑戦する児童を認めることができる一方で、自分にはできるのだろうかという不安がある。3年生に向けて、自分の弱さやできないところを認め、それでも挑戦し続けることの大切さを感じさせたい。

○評価

・終末部での『私に対する手紙』を中心に見取る。

名前

しつもん①

今までに、「ちょうせんしてみて、できた」ことを教えてください。

しつもん②

「ちょうせんしてみて、できた」とき、どんなことを考えましたか？（思いましたか？）

しつもん③

今までに、「ちょうせんしたけど、あきらめた（できなかった）」ことを教えてください。

しつもん④

「ちょうせんしたけど、あきらめた（できなかった）」とき、どんなことを考えましたか？（思いましたか？）
